

## クサソテツ（コゴミ）の栽培特性に関する研究

九州大学農学部 長澤 久視・井上 一信  
 新妻 二郎・椎葉 康喜  
 椎葉 辰雄・大賀 祥治  
 吉良今朝芳

## 1. はじめに

クサソテツ（コゴミ, *Matteuccia struthiopteris* (L.) *Todar*) はオシダ科クサソテツ属に分類され、山地の明るい草原や湿地に群生する夏緑性の多年生シダの一種である。シダ類のなかではアクが無く加熱時間が短くてすみ、ゆでてそのまま調理可能で、歯ざわりが抜群の鮮緑色の人気ある山菜である<sup>1)</sup>。

現在、その出荷は東北産がほとんどで100g平均400～500円と高値で安定している。最近、九州で試験的に栽培された事例ではフライト便で「促成山菜」として東京市場へ出荷され100gあたり1000～2000円もの高値で珍重された<sup>2)</sup>。

その生育には冷涼な気候が適し東北、北海道に自生する例がほとんどで、特に九州での自生はまれで組織的な栽培例は報告されていない。

ここでは、九州での栽培の可能性ならびに施肥効果について試験を行った。

## 2. 試験方法

## (1) 試料及び試験地

クサソテツ：*Matteuccia struthiopteris*, 九州大学北海道地方演習林, 2林班（足寄郡足寄町）よりの野生株を使用, 7月および11月に葉柄部を取り除いたものの分譲を受け、根茎部をただちに九州大学柏屋地方演習林, 14林班（柏屋郡久山町）ならびに九州大学宮崎地方演習林, 25林班（東臼杵郡椎葉村）に植栽した（塊茎繁殖）。

なお、根茎部重量は100～1000gで十分湿度の保てる林地を選び、1m間隔で植えつけた。植栽時の施肥は特に行わなかった。柏屋地方演習林では標高約350mの沢筋で庇陰木として40年生のスギ林分があり、一方、宮崎地方演習林では標高約1000mの沢筋で庇陰木として、モミ、シデ、カエデ類があり、いずれも冷涼な環境が期待できる所である。

## (2) 施肥

緩効性の化成肥料ウッドエース4号（12-6-6）（三菱化成）を定量区として10粒（150g）、倍量区として20粒（300g）、各々、根茎部の囲りに環状に施肥を行った（植栽翌年の4月）。

## (3) 測定項目

植栽翌年の葉柄長ならびに若芽の発芽数を測定した。

## 3. 結果および考察

北海道産の野生株が九州（柏屋地方演習林、宮崎地方演習林）で活着できたことを確認した。

表-1に各地方演習林の気象概況を示すが、気温ならびに降水量にかなりの開きがあるにもかかわらず活着できたことより、コゴミの生育力はかなり旺盛なものと考えられる。

ただ、11月植栽分はほぼ100%活着したのに比べ、7月植栽分は活着率が低く、やはり青葉が繁っている時期をさけ、秋季の茎葉が黄変して枯れていることが根茎採取の適期であろうと思われる。

図-1および図-2に植栽時の根茎重と翌春新たに発芽してきた葉茎長について示す。植栽時の根茎重が大きい方が茎長が長くなり生育力が強いことが分かる。

さらに、図-3および図-4に植栽時の根茎重と翌春の若芽発芽数についての関係を示す。コゴミ採取の立場より、この数が多い方が有利と考えられるが、ここでも植栽時の根茎重が大きい方が発芽数が多くなっている傾向が明らかになった。

従って、塊茎繁殖を試みる場合、より大きな根株を採取し植え付けるのが有効な手段の一つであることが明らかになった。

図-5および図-6に施肥効果についての結果を示す。若芽の発芽数が多い方が有利であるが、2試験地ともに施肥の効果は顕著に現われているとは言い難い。施肥後わずか数ヶ月経過後の測定結果であり、用いた肥料が緩効性のものである点を考え合わせると、引き続きの観察測定の必要性があると思われる。

Hisami NAGASAWA, Kazunobu INOUE, Jiro NIIZUMA, Yasuki SHIIBA, Tatsuo SHIIBA, Shoji OHGA and Kesayoshi KIRA (Fac. of Agric., Kyushu Univ., Fukuoka 812)  
 Cultivation test of Kusanotetsu (*Matteuccia struthiopteris*)

引用文献

(1) 大沢 章：山葉の栽培・加工・流通，林業改良普及

双書72, pp.118~128, 全国林業改良普及協会, 東京, 1986  
 (2) 日本特用林産振興会編集委員会：特産情報7月号, pp.25~29, 農村文化社, 東京, 1990

表-1 コゴミ自生地（北海道演習林）ならびに2試験地（柏屋演習林および宮崎演習林）の気象概況

	年平均気温(°C)	1月平均気温(°C)	8月平均気温(°C)	年度降水量(mm)
北海道演習林	+ 6. 8	- 9. 3	+ 22. 6	8 0 3
柏屋演習林	+ 16. 8	+ 8. 1	+ 27. 1	1 8 0 7
宮崎演習林	+ 12. 6	+ 3. 9	+ 22. 9	3 7 5 3

いずれも演習林事務所での測定データであり，試験地との標高差は北海道が200m，柏屋演習林が300m，宮崎演習林が400mである。

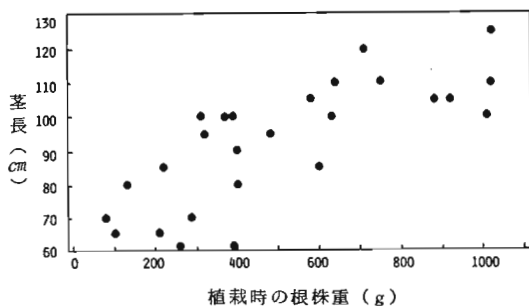


図-1 植栽時の根株重と新芽の茎長との相関（柏屋演習林）

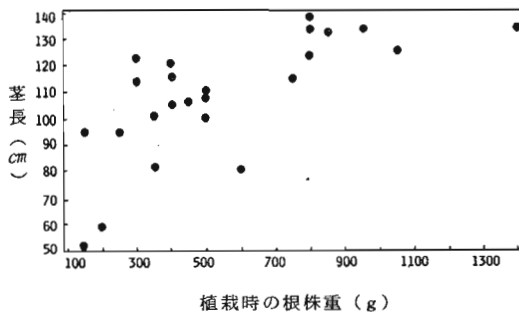


図-2 植栽時の根株重と新芽の茎長との相関（宮崎演習林）

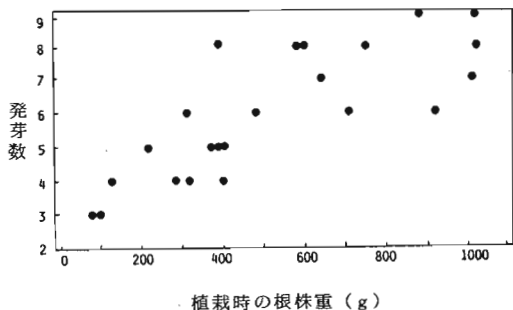


図-3 植栽時の根株重と発芽数との相関（柏屋演習林）

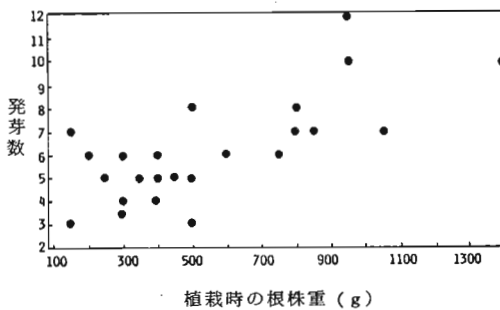


図-4 植栽時の根株重と発芽数との相関（宮崎演習林）

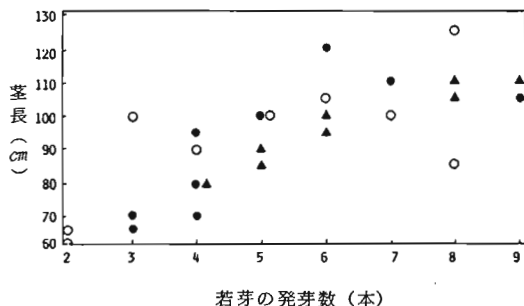


図-5 コゴミの生育に対する施肥効果（柏屋演習林）

●：無施肥区  
 ○：定量区（10粒，150g）  
 ▲：倍量区（20粒，300g）

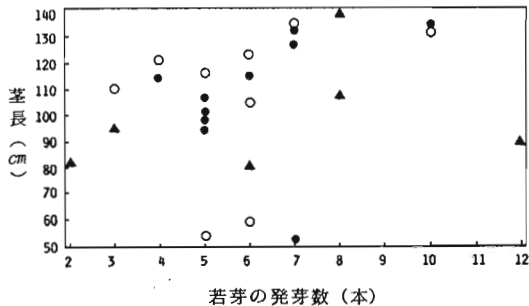


図-6 コゴミの生育に対する施肥効果（宮崎演習林）

●：無施肥区  
 ○：定量区（10粒，150g）  
 ▲：倍量区（20粒，300g）